

事業所名：むらさき苑かまど わの家

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372101105		
法人名	社会福祉法人 西根会		
事業所名	むらさき苑かまど わの家		
所在地	〒028-7112 岩手県八幡平市田頭第24地割36		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和5年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・むらさき苑かまどわの家の敷地内には特養むらさき苑、デイサービスがあり、避難訓練やお祭りその他の行事などの協力体制は大きな強みになっている。特養の建物内には居宅介護支援事業所があり、相談や情報提供が出来る。</li> <li>・職員が気づいたことや利用者の事などを意見として提案しやすい雰囲気が職場内に出来ている。</li> <li>・職員は利用者の隣に座り、普段の会話の中から思いや要望を聞き、出された要望になるべく早く応えられるように努めている。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action.kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action.kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の特別養護老人ホームやデイサービス等の関連施設が同一敷地内にあり、施設間の連携の絆は強い。近隣には、市コミュニティセンターや歴史的な公園、小中学校があり、落ち着いた地域環境に位置している。利用者は、男性1名を含め、平均年齢89.2歳、99歳の方もおり、一部介助を得ながら、ゆったりと日々を過ごしている。職員は、自身を利用者と家族に置き換えて考えるようにしながら、相手の立場に立ってケアサービスを行うことを基本としている。本年度からは、週1回、居室担当者と利用者が1対1で活動する時間を設け、本人の思いや希望に沿ってひと時を過ごせるよう取り組んでいる。法人全体が地域の介護福祉のセンター的役割を担っており、本年9月には、地域の在宅介護を行っている10家族を招いて、各施設を見学してもらった。近隣住民による「地域災害協力隊」を始め防災に向けた地域との連携体制も構築されており、今後とも、福祉避難所の指定施設としての役割も果たしつつ、事業所の認知症ケアの専門性や実践経験を活かした地域貢献が期待される。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のレク活動時に、利用者の方々と一緒に理念を唱和している。唱和することで理念を共有し、意識して業務にあたる事が出来ている。理念は玄関、食堂、多目的室、事務室の見えところに掲示している。	法人の理念をもとに、事業所理念を『みんな輪になり、和やかに、話し声の聴こえる、我が家』とし、日々のレクリエーション時に利用者・職員と一緒に唱和している。この理念を実践するため、支援に向けた主要事項を年間事業計画に定め、利用者と職員が話し合っ、3ヵ月毎に具体的な生活目標を決め、食堂・事務室等に掲示しながら、利用者が共に支え合っ日々を送れるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年はコロナ禍の為、ほとんど地域との交流はなかったが、最近は地域のお祭りに出かけたり、高校生と花植えをしたり徐々に交流が増えてきている。	コロナ禍が落ち着いた本年度は、地域との交流の復活に努めている。近隣のコミュニティセンターの祭りに出かけたほか、同センターの文化祭に作品(利用者・職員で作った花ちり紙人形)を提出したいと考えている。障がい者施設の作業所から苗を購入し、地元高校生の協力を得て花壇づくりを行い、また、小学生からは中庭で「よさこいソーラン踊り」を披露してもらうなど、地域の子ども達と交流している。9月に地域の在宅介護の10家庭による事業所見学を実施した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度は行えていないが、ボランティアや職場体験を受け入れ、利用者の方々と接してもらい理解できるようにしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や生活状況等を報告し、委員の方々から意見をいただいている。会議が中止となった時は、資料と一緒に意見や要望を記載する用紙を同封したが返信は少なかった。	昨年は書面開催が中心だったが、今年は参集をいただき開催している(7月は委員都合で書面開催となった)。昨年末に委員にアンケート調査を行い、運営推進会議の進め方や行事等のケアサービスについて意見や提案をいただき、運営に役立てた。今後は、事業所運営の課題や方法について、予め具体的なテーマを設定して意見等をいただくことを検討したいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や入所判定会議のメンバーに市の職員がおり、わの家の状況を説明したり、市からの情報を提供して頂いている。	事業所としては市福祉課と電話を中心に日常的な情報の連絡や交換を行っているが、介護行政全般については、法人の特養施設長を兼務する所長を中心に綿密な連携を図っている。災害や感染症の発生時における事業継続計画(BCP)について、市と連携しながら作成を進めている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回委員を中心に事業所内で研修会を行っている。年度初めには岩手県の『身体拘束ゼロを目指して』のパンフレットを活用して拘束のないケアを皆で確認している。夜間は防犯上、玄関を施錠している。センサーを使用し見守りで対応できるように努めている。	法人全体としては、各事業所から1名参加する「権利擁護委員会」において身体拘束や虐待の防止について話し合っているが、事業所においても、管理者が委員長となり職員3人で構成する「身体拘束適正化委員会」を設置し、3カ月毎にケアサービスの振り返りや課題について検討を行っている。職員会議時の研修のほか、認知症ケアウェブ研修も行っている。年1回職員アンケートを実施し、身体拘束や虐待に関する職員の意識調査を行うとともに、自己チェックの機会としている。防犯のための夜間の玄関施錠、何人かの利用者には見守りのためベッド脇センサーを設置している。身体拘束の事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を開催し、虐待につながるような要因はないか話し合っている。特養の身体拘束委員会に出席し情報を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の研修会で学ぶ機会はあった。本人や家族を支援できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には重要事項説明書に沿って、納得して頂けるように説明しサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所持には意見や要望を伺っている。意見等は職員間で共有し、可能な限り早く実現できるように努めている。利用者から出た意見は運営推進会議で報告している。	現在、利用者と家族との面会は玄関で行っている。月1回の利用料会計で来所した際に要望・意見を確認している。発行担当を決めて、毎月「ほかほかくつろぎ通信」を発行しており、行事の際の写真に加えて、家族あての担当職員からのコメントを記入し、利用者の日々の暮らしの様子が伝わるよう努めている。現在、玄関先に加え、敷地内にテントを設置し、より多くの本人・家族が面会機会を持てるように工夫している。運営に関する利用者、家族からの意見、要望は特にない。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催し意見を聞く機会を設けている。所長にも出席して頂き、意見を提案している。普段の会話や申し送りの際にも意見が提案できている。	月1回の所長出席の職員会議のほか、所長による年1回の個人面談において、職員の意見や要望を聴取している。職員個々の希望や悩みを聞きながら、事業所全体のケアサービスの向上や風通しの良い職場環境、職員間のコミュニケーションづくりに役立っている。グループワークの実施、用具の見直し、特定の職員に負担がかからないローテーションの工夫等、職員意見を反映した運営を行っている。職員の資格取得支援や各事業所副主任で構成されている「研修委員会」で策定される経験年数別の研修により、介護に対する自分の考え方を持った職員の育成に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇を取得できるように勤務を調整している。業務の見直しなどで、残業がなくなっている。資格の更新研修は積極的に受講する事が出来ている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で勤務年数に合わせた研修を行っている。昨年度は外部の研修会にほとんど参加できなかったが、法人内の研修会には参加し学ぶ機会があった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はほとんど出来ていないが、外部の研修会に参加し交流をしていきたい。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し思いや、要望を伺っている。家族やケアマネから情報もらい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人同様、家族とも面談し思いや、要望などを伺い関係づくりに努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いから必要な支援が出来るよう努めている。ケアマネから在宅の様子や家族との関係性を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々それぞれに出来る事を見つけ、役割を持つ事で利用者同士が支えあい良い関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方々との状況は毎月の通信や家族が来所時に伝えている。必要に応じて電話で伝える事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りや、行事には出掛けられるようにしている。自宅方面にドライブに出掛けたり、希望の所に行けるように努めている。	現在、以前からの知人で馴染みの関係が保持出来ている利用者は1人程度で、家族中心の交流になっている。馴染みの場所は、自宅が多く、ドライブの際に自宅周辺を巡ることも多い。自宅への行き方や思い出のある場所に誘導してくれる利用者もいる。定期的に床屋が来所してくれ、利用者との馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを把握し、職員が間に入り関わりを支援する事もある。活動時は皆が参加出来るように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば応じている。法人内の施設への入居時には情報提供をしている。面会に行き様子を聞いている。		

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から、本人が何を思い何を希望しているかを把握し、希望に添えるように努めている。	午前と午後のお茶の時間にみんなで会話を楽しみながら希望等を聴いているが、今年度からは、週1回、居室担当者が利用者とマンツーマンでお付き合いする時間を設け、新聞の話題提供や昔話などを通じて本人の気持ちややりたいことを把握するようにしている。職員間で連絡ノートや口頭伝達により本人の情報を共有し、生活歴等から、畑仕事、洗い物たたみ、茶碗洗い、おしぼり絞り、野菜切り等、やれることを手伝ってもらっている。おやつ作りもみんなで行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネからの情報を活用しているが、家族関係が変わり、把握できない事もでてきた。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や申し送り、連絡ノートや口頭での伝達で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者や利用者担当だけでなく全職員で意見を出し合っている。毎月のモニタリングにより課題がみえてくる。職員会議で意見交換を行い、課題を多角的にみていく事で、現状に即したケアプランを作成している。家族にも意見を確認している。	当初プランは計画作成担当者が作成し、1、2カ月の間、状況を確認したうえで正式なプランとしている。毎月、居室担当者の資料をもとに職員全員でモニタリングを行い、プランの実践状況を評価している。基本的に6カ月毎に見直しを行い、家族の意見・要望に加え、体調に不調があった際には、協力医(市立病院)の意見も得ながら、プラン変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子は個別に記録しており、対応に変更等があれば申し送りや連絡ノートを活用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ、受診の送迎や入院の支援などを対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外部との関わりを持つ事が出来なかったが、徐々に外部との関わりが増えてきており、とても楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される方は承諾を得て、月に一度訪問診療を受けている。診療時には個々の状態を報告し、医師の説明や薬の情報を頂いている。訪問歯科診療も受けている。	8人は毎月1回、八幡平市立病院の定期訪問診療を受診しており、1人は同病院の外科診療を受診している。市立病院と円滑な関係ができており、適切な助言、指導を得ている。また、法人内特養の看護師に必要な都度、相談し、助言を受けている。歯科も訪問による定期検診を4月・10月に実施している。受診状況は家族に毎月報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師に対処方法や受診の必要性について相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院に情報提供をし治療や入院生活を受けやすいように支援している。入院中は病院や家族と連絡を取り合い情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で重度化や終末期に向けての意向を確認している。重度化に対応できる設備が不十分な事を説明し理解を頂いている。	重度化し、事業所での支援が困難になった場合は他施設等への転移を進めること、終末期の看取りはできないことを利用開始時に家族等に説明し、同意を得ている。介護度3の段階で特養施設への入所希望の申請を助言している。これまでのところ、重度化した段階での法人内特養や他の医療機関への転移はスムーズにできている。	利用者家族に対しては、利用開始時の説明段階で、グループホームとしての重度化、看取り指針等を示しながら、重度化、終末期の考え方を丁寧に説明し、同意書で確認を得ておく必要があり、今後の検討を期待します。

事業所名：むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはいつでも見れるようにしているが、意識して確認する機会は持っていない。マニュアルの見直しや、初期対応の訓練もここ数年は出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は同敷地内の特養と合同で定期的に行っている。法人の地域災害協力隊の参加もある。昨年は水害時の訓練が出来なかったので今年度は行いたい。	法人全体で「自主防災組織」を設置し、年2回、隣接の特養と合同で、火災(うち1回は夜間想定)避難訓練を実施している。訓練には近隣地域30世帯で構成する「地域災害協力隊」の役員にも参加している。地域の防災訓練にも参加している。市から福祉避難所の指定を受けており、防災に向けた地域住民との関係構築に努めている。発電機等の備蓄品は特養と合同で活用している。	職員の非常招集訓練を行い、有事の際の在宅職員の行動パターンを把握しておくことも災害発生時の対応策として必要と考えられ、検討を期待します。また、河川等に近接はしていませんが、最近の災害状況から水害も含め様々な災害を想定した避難訓練の実施を検討されることが望まれます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束の研修でスピーチロックや声の掛け方を学んでいる。制止言葉は使わないように、言い換えるようにし思いやりのある対応を心掛けている。	内部研修を行い、スピーチロックにならないよう職員間で確認し合いながら利用者に声がけをしている。ケアサービスにおいては、利用者一人一人の人生・生活歴を大切に、誇りを傷つけないよう、職員自身が嫌だと思うことは利用者には押しつけず、また家族の立場に自らを置き換えて利用者への対応を考えるよう留意している。入室時のノック等、プライバシーに配慮し、広報掲載時には家族からの同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自分で決定出来るような声掛けを行っている。毎月、『わの家会議』を開催し、やりたい事や食べたい物等自由な意見を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休みたい時に休んだり、一人一人のペースに合わせて過ごしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方には入浴後に着る衣類を準備してもらったり、職員と一緒に準備している。外出時は洋服を個々で選んでもらい、自分らしいおしゃれが出来るようにしている。		



令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた野菜を付け合わせたり、バイキング形式にしたり、目でも楽しめるように工夫している。移動パン屋に訪問してもらい、好みのパン選んでもらい朝食やおやつに提供している。テーブル拭きや食器洗い等をお願いしている。	ご飯とみそ汁の主食は事業所で作り、副食は法人として全施設分を外注しており、敷地内の特養で準備して、職員が運び提供している。メニューは、誕生会時の赤飯や会議室にセットしての回転寿司、バイキングによる昼食やおやつ、月1回の移動パン屋の訪問日でのパン食など、変化を楽しんでもらえるよう工夫されている。二つの食卓の定位置で、殆どの利用者が介助なく食事を楽しんでいる。職員と一緒に食事は摂らず、見守りを中心に支援している。食器洗いや茶わん拭きの手伝いを1、2人の利用者が行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて副食を刻んだり、水分にトロミをつけたりしている。毎食、食事摂取量の観察をしている。毎日午前の水分提供時に寒天ゼリーも提供し少しでも多く水分を摂ってもらえるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けや介助を行っている。義歯の方は毎晩洗浄剤につけ置きしている。定期的に訪問歯科診療を受け必要な方は治療を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄を記録する事で排泄のパターンを把握でき、個々のパターンに合わせて声掛けや誘導を行っている。状態に変化があれば、その都度職員間で話し合っている。	利用者全員がトイレで排泄している。2人は布パンツで自立しているが、他の人はリハビリパンツにパットで一部介助である。廊下にある共用のトイレへの誘導は、排泄記録をもとに声がけする人と自らトイレに行く人が、ほぼ半々である。夜間は、声がけにより、トイレでの見守り、介助を行っており、ポータブルトイレは使用していない。自立に向けた支援に努めており、パットから布パンツになった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の観察を行い、数日見られない時は下剤を服用する事もある。毎日の体操や、ゴミ捨てを兼ねた散歩、午後のレク活動で体を動かす機会を作っている。毎日寒天ゼリーを提供し食物繊維を多く摂れるようにしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	勤務時間の関係である程度入浴する日を決めているが、体調や希望に合わせて調整している。仲の良い方と二人で入り背中を流しあう時もある。一週間に2回入浴している。	午後から週2回の入浴としており、入浴介助は1対1で行っている。気の合う利用者同士で入浴することもある。異性介助も嫌がらない。入浴剤やゆず湯を使用し、リラックスして入浴してもらっており、歌を歌ったり職員との会話を楽しんだりしている。入浴を嫌がる場合もあるが、次の日と入れ替えるなど、工夫している。特養に機械浴の設備はあるが、現在は使用していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、居室で臥床する方もいれば、ソファで休む方もおり、好きな場所で休んでもらっている。就寝時間、消灯時間は特に決めておらず、休みたい時に休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の処方箋に全員が目を通している。服薬チェック表を使い、飲み忘れや間違いがないように確認している。内服介助の際も、間違いがないように声に出して本人確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の手伝い、掃除、洗濯物たたみ等、出来る事を出来る範囲で行っていただいている。ドライブや自宅へ外出、買い物など気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日ゴミ捨てを兼ねた散歩に出ている。同じ方ばかりに偏らないように声をかけている。歌謡ショーに出かけたり、ドライブに出かけている。家族の方と買い物に出かける時もある。	毎日、利用者が交代でゴミ捨てをしながら敷地内を散歩している。県民会館の演歌歌謡ショーに出かけるなど、利用者の希望や意向を確認しながら楽しむ場を提供している。八幡平の花見、焼き走りの溶岩流や松川渓谷など、季節毎に自然と親しむ場にも出かけている。コロナ感染が落ち着いた今年は、職員との1対1のドライブや家族との買い物にも取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で管理できる方がおらず、家族から預かったお金は金庫で保管している。敷地内にある自動販売機で好きな飲み物を購入したり、担当職員と買い物に出かける事がある。残金は家族来所時に確認していただいている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は職員から電話をかける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇や中庭で花や野菜を育てており成長を楽しみにしている。食堂と東西の廊下に利用者と一緒に作った季節感のある壁面装飾を毎月作製している。居室には利用者担当の職員が写真や塗り絵を飾ったりしている。	ホールの天井には梁が交差し、天窓による明り取りがある。食堂、居室、廊下にコの字で囲まれた中庭は広く、プランターで花々を飾るなど、居室側から見てゆったりとした雰囲気を醸し出す空間になっている。ブロックが敷かれ、行事等に使用されることもある。ホールには畳の小上がりがあり、多目的に使われている。ホールや廊下に季節毎に利用者の作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の共有スペースで過ごす事が多いが、廊下の小上がりに座り日向ぼっこをする方も自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用したタンスや布団等思い入れのあるものを持参してもらっている。テレビやラジオを居室に置き一人で自由な時間を過ごしてもらっている。	エアコン、パネルヒーター、ベッド、押し入れ、手洗いなどが配置され、タンス、人形等使い慣れたものやテレビ等を持ち込み、自分好みの部屋づくりをしている。簡素で落ち着いた雰囲気の居室が多く、自由なひと時を過ごせる環境が整えられている。自分の部屋として意識し、職員と一緒にモップ掛けをする利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には手すりがあり、安全に移動できるように配慮されている。トイレの場所や自分の部屋が分かるように表示している。		